はじめに

この本にマニュアルを期待されても困ります

品川　文雄

はじめにお断りしておきますが、この本には、教育実践のハウツーもマニュアルもありません。それを期待されて読まれても、ない物ねだりというものです。ここには、麦の会に集う教師たちが、目前の子どもたちと向き合い、その思いやねがいをつかみ、受け止め作り上げた教育実践の記録が書かれています。ですから、「理由もなく友だちを突然たたく子をどう指導したらいいの」とか、「一日中、水道の蛇口から離れない子をどう指導したらいいの」といった、読者が当面する諸問題に対応する回答はありません。まして子どもをとらえる特効薬を記した処方箋でもありません。

あっ！　ちょっと待って、待ってくださ～い。

「私の悩みや迷いに応えてくれない本はいらない」と、本を閉じないでください。騙されたと思って、実践記録をどれでも良いですから、最低二本読んでください。悩みや迷いに直接応えていなくても、たとえば「あんなふうに子どもをとらえ直すと、子どものしんどさが見える」「やんちゃなあいつも可愛く思えるわ」といった新たな子どもの見方、とらえ方を発見できると思います。また、子どもが夢中になる教材や学ぶことでいのちが輝いたり、ひと皮むけるような教材のイメージがつかめると思います。間違いなく麦の会の教育実践ワールドに引き込まれていくことでしょう。

子どもと日々付き合っていると、子どもが発する思いやねがい、またあるときは問題をどうとらえたら良いか迷うときがあります。教科を教えたいと思い、教材を工夫して用意しても全く受け付けてくれません。くれないどころか、騒いだり立ち歩たりして授業の体をなさないときがあります。そんなとき、これらを簡単に解決する方法はないものかと思うことでしょう。本屋に行けば、これらすべてお見通し～ハウツー本やマニュアル本がたくさん並んでいます。研修会に行けば、「これからの特別支援教育には職人肌の教師はいりません。難しい子ども理解や授業づくりも、個別の指導計画やマニュアル本にもとづけば、誰でも簡単にできるようになります」といわれます。

でも、本当にそうでしょうか。かつて私は教師の専門的力量について次のように述べたことがあります。「私たち大人の、丸ごとの人間性、人間的豊かさに応じてしか、子どもたちはみえてこないし、教育実践もつくれない」これに続けて、「個別の指導計画作成などにかかわって、誰でも苦労せずに子どもをとらえられるとか、誰でも簡単に授業をつくれるといわれることが多い。これはまやかしであると思う。失敗やまちがいを犯しながら、しかし、それらを次の成功の糧となるように分析し、苦労して実践的力量を高める以外ないし、豊かな人間性は大変な努力なしに実現しないと思うからだ」（「障害児学級で育つ子どもたち」全障研出版部、二〇〇四年）。これは三七年間、教師を続けてきての実感です。退職した今でも、自分は実践的力量も人間性も未だ不十分であり、いつまで経っても「発展途上人」だと感じています。

人が人に意図的に働きかけ、新しい知識、技能、感性などを育む教育という営みに、悩みや迷いは付き物です。悩んで当然、迷って当然、より良いものを生み出したいからこそ悩むのであり迷うのです。問題はその解決方法であると思います。悩んだり迷ったりする自分を抜きに解決してはならない、まして解決の方法を人に委ねるのでは真の解決にならないと思うのです。自分の頭で悩み抜き考え抜く必要があります。そのとき、同じように

悩み迷う仲間と互いの悩みや迷いを共有し、解決の糸口を見いだしあうことが、必要な気がします。仲間に話すことで自ずとわかることがありますし、仲間と話すことでそれまで気づかなかったり見過ごしたりしてきたことを指摘してもらえるからです。子どもたちの発達に集団が欠かせないように、教師にも失敗をふくめて何でも話せる集団や、子どもたちの思いがけないつぶやきや小さな変化に、心ときめかせたことを持ち寄り語り合える集団が必要なのです。

麦の会というサークルは、そうした集団の学びあいを三〇年以上も行ってきました。実はこの本に収録されている実践記録は、麦の会の例会で報告されたものです。「みんなのねがい」に連載するにあたり、もう一度イヤ何回も検討されました。実践記録は一度検討されたら、もう終わりと思っている方がいると思いますが、それは違います。時を経て検討すると、その間に個々の会員と麦の会という集団が、新しい知見や技術などを得ることで、実践をとらえる力量や視点が変わったり発展したりして、大切なことや見過ごしたことを新たに発見できるのです。その成果の集大成がこの本です。

麦の会は、障害児教育における教科教育の論議に一石を投じたいという思いから、一九

九八年に「子どもに文化を手渡すとき～障害をもつ子にわかる喜びを生きる力を」（群青社）を出版しました。今回の出版はそれに続く、麦の会としては第二弾の本です。二〇〇八年四月から一二回、全障研の月刊誌「みんなのねがい」に連載した原稿に加筆・修正を加えました。今回は教科教育の論議に加え、子どものとらえ方や学級づくりなど障害児学級の教育実践において大切にしたいことを中心にまとめました。はじめから順番に読まれても、自分の興味の順に読まれても、教育実践の楽しさ、奥深さを味わっていただけると思います。

気軽に肩の力を抜いて、さあ。